



Vol.5

ゆうことみゆきのふくふくトーク

ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

チブサンケ(舟おろし)



夏本番！私が毎年必ず参加する夏の行事は、かつて十年以上暮らしていた平取町二風谷でのチブサンケ(チブ丸木舟、サンケークを下ろす)。新しく造られた舟に魂を入れ、川の神に安全を祈願する進水の儀式だけど、その年初めて川に浮かべる時に、新たな生命を与えるための入魂の儀式でもあるとのこと。二風谷では儀式の後、丸木舟で川下りを楽しむ一般公開の年中行事になります。

丸木舟は大きくて安定感があるけど、実際には造り手の腕次第で、かなりスリリング。さてここで質問。伐り倒した丸木を、ひっくり返らないバランスのとれた舟に仕上げるにはどうしたらいいでしょう？

丸木舟は大きくて安定感があるけど、実際には造り手の腕次第で、かなりスリリング。さてここで質問。伐り倒した丸木を、ひっくり返らないバランスのとれた舟に仕上げるにはどうしたらいいでしょう？



答えは、生えてた時の北側の部分を舟底にすること。これが鉄則！北側は陽が当たらないから成長が遅く年輪が詰まっているでしょ。結果的に南側よりも重くなっているんで、その部分を舟底にすることで安定するの。

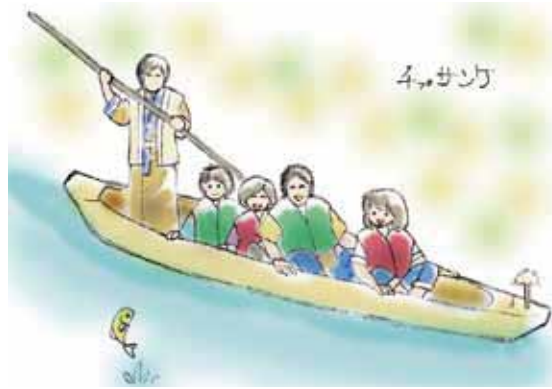
とはいえ、すぐに転覆する危なっかしい舟は昔もあつたらしく、「アタブチブ」と呼ばれます。実はチブサンケでは、私も学生もアタブチブに乗り合わせることを内心期待してます。むしろ学生達は自分から川に飛び込んで水遊びを楽しんでるくらい。今年のチブサンケは八月十九日。ぜひどうぞ(実は前夜祭も最高！)。美幸さんの博物館でも先日、チブサンケがあつたよね？



うん、新しいイタオマチブが完成したからね。

アイヌの伝統的な外洋船であるイタオマチブ。白老では明治の中頃まで海漁に使われていたんだって。

舟材は、樹齢二百八十年以上のカツラの原木。富良野市にある東京大学北海道演習林の協力をいただいて伐



採してきました。太平洋の大海にイタオマチブを漕ぎ出し、キテ(鋸)を片手に挑む、勇壮果敢な海漁を想像するだけでも、生き生きとしたアイヌの生業が伝わってくるよね。

夏のこの時期は、シリカブと呼ばれるメカジキやクロカジキが白老沖にも回遊していたことから、大型魚を追った漁が盛んだったんだって。それでは、私からもクエスチョン！鼻？ではなく、上顎(吻)が鋭く長〜いシリカブは、イワシやサバなどを食べますが、どうやって餌を獲るのでしょうか？

正解は、あの長い上顎で二突き、獲物を刺して獲る!!...これは、冗談ですが、上顎を使うのは正解。シリカブは長い上顎を振り回して獲物を打ちのめし気絶させたり、致命傷を負わせ、瀕死状態となつたものを食べる!!...でした。私が以前、解体をしたメカジキのお腹には、二匹のイワシがほとんど無傷のまま入っていたから、上顎による一撃で気絶したのかもしれないね。

アイヌ民族博物館では、八月十七日にシリカブカムイの送り儀礼をおこなうので、海漁にまつわる伝統儀礼にぜひ参加してみてください。美味しいシリカブの伝統料理も食べられるよ。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌの子供達へのアイヌ語教育に携わる。

■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。(財)アイヌ民族博物館 専務理事。先住民族アイヌの一員として、アイヌ文化伝承と普及啓発活動に努める。